

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
17104002	銀河系に於ける星間ガスのイオン化状態の大域的構造と星-ガス循環過程の定量的研究	吉井 讓 (東京大学・大学院理学系研究科 附属天文学教育研究センター・教授)	B
<p>5600m の高地で新たに望遠鏡を建設することは極めてチャレンジングであり、大変な計画であることは十分理解できる。しかしながら、当初計画していた1平方度の視野を5' × 5' に縮小せざるを得なかった点を含め、計画の検討や年次計画に問題があったことは否定できない。その結果、当初の1万平方度サーベイが数百平方度サーベイに変更されたことで、科学的なインパクトも下がってしまった。サイトの整備や観測装置の準備やテストなどで努力している点は認められるが、当初計画の縮小にもかかわらず当初の予定よりも研究が遅れていることも事実である。</p> <p>このような現状を鑑み、是非とも当初の科学目標を達成すべく、一層の努力をすることが望まれる。</p>			